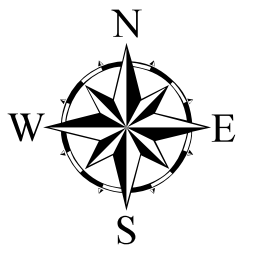




阪南港・泉州港 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面
隆起量：平均 -13cm(-15cm ~ -11cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算と異なることがあり、より大きな津波が来る可能性もある。



1:30,000

座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS84)

凡例

露出域

経時変化図出力点

最大水位低下

200~最大212cm

150~200cm

100~150cm

50~100cm

50cm未満

引潮時最大流 [knot]

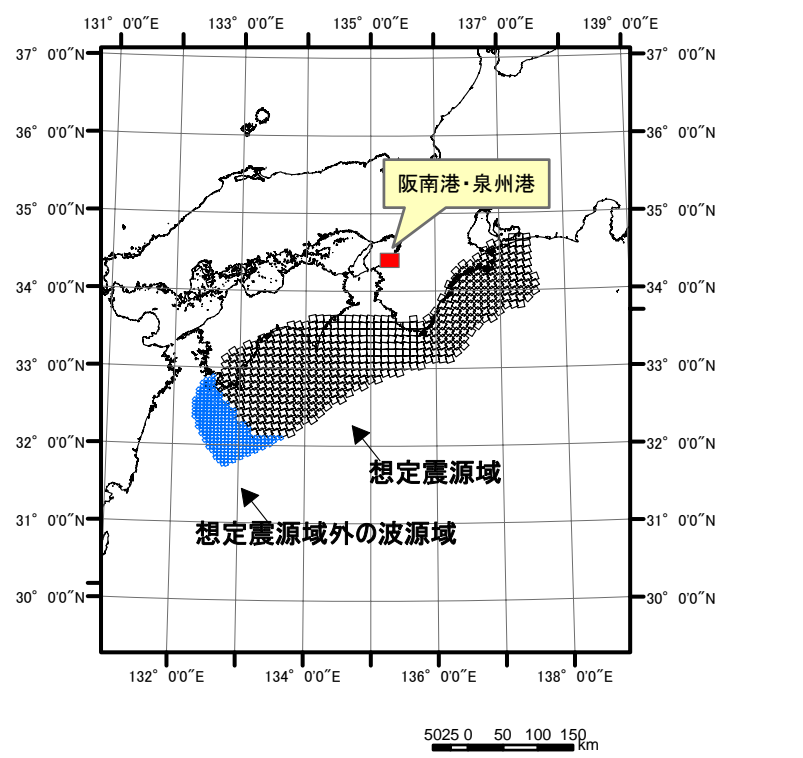
6 knot

4 knot

2 knot

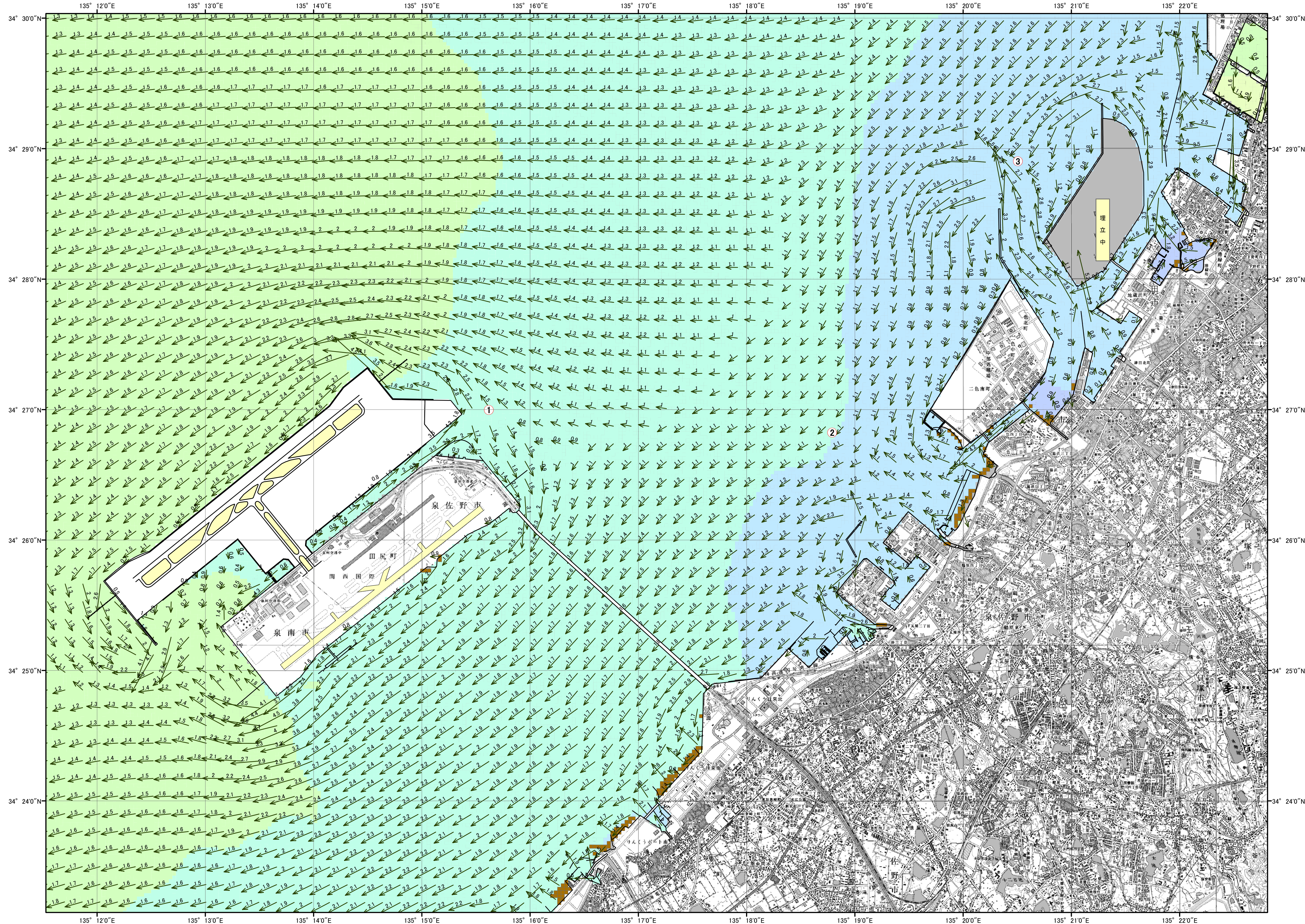
・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

想定震源域と波源域の位置



マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。



・試算に使用したデータは、海上保安庁洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総保、第969号)
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平19総保、第522号)

0 250 500 1,000 1,500 2,000 m

作成機関：海上保安庁
作成年月：平成 20年 3月 (初版)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

